

JAPAN CASTLES EXAM — CENTRAL JAPAN BASIC

2026年9月版

日本名城検定中日本 想定問題集

解説つき 全問オリジナル作成

6

問収録

無料サンプル版

製品版は全160問

SKILL BASE CAMP

本書は非公式の学習教材です。試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。
公的機関の公表資料および一般に公開された情報のみに基づき、著者が独自に作成しています。

本書について

本書は、日本名城検定中日本の想定問題集（全160問）の無料サンプル版です。製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、6問を抜粋しています。

対象	日本名城検定中日本（ベーシック）の受験者
出題形式	多肢選択式、問題数40問（受検案内「試験内容」中日本）
収録数	6問（各章の問題のあとに解答・解説）
準拠	受検案内・日本名城検定とは（一般社団法人日本総合検定資格センター、2026年9月取得）、および対象12城について自治体・教育委員会・文化庁が公開している資料

本書が対象とする範囲について（必ずお読みください）

本試験は、東日本・中日本・西日本の3エリアで計100城を選出して出題されていますが、**中日本エリアの出題対象の城名一覧、および中日本に含まれる県の範囲は、公式テキスト以外の 公開資料には記載がありません**。本書は、中部地方9県（新潟・富山・石川・福井・山梨・長野・岐阜・静岡・愛知）を中日本の仮の範囲とし、そのうち自治体・教育委員会・文化庁などの公開資料で 所在地・沿革・構造などの裏付けが取れた**12城**（名古屋城・松本城・上田城・岐阜城・大垣城・丸岡城・金沢城・駿府城・新発田城・高田城・甲府城・村上天）と、城郭全般の一般知識（共通科目）で作問しています。富山県については、裏付けの取れる公開資料を確保できなかったため 対象城がありません。本試験の出題対象の城・県とは**ずれる可能性があります**。

科目別の出題割合も公表されていません。本書では、受検案内に列挙された中項目の数の比（中日本の日本名城全般8：共通3）にもとづいて配分しています。本

試験の実際の出題比率を再現したものではありません。

本試験の形式と合格基準

本試験はWEB受検（自宅・職場などからパソコン・タブレット・スマートフォンで受検）の多肢選択式で、問題数は40問です。合格基準は正答率75%以上とされていますが、「難易度により調整されることがある」との注記があります。試験時間・配点は資料に記載がないため、本書では扱っていません。合否は検定日から約60日後にメールで個別に通知されるとされています。

2科目と配点

出願内容は「中日本の日本名城全般」（個別）と「共通」の2科目です。科目別の出題割合は公表されていないため、本書は受検案内が示す中項目の数の比にもとづき、次の配分で収録しています。

中日本の日本名城全般	116問（72.5%）
------------	-------------

共通	44問（27.5%）
----	------------

解き方の目安

「中日本の日本名城全般」は、所在地・別名・城地種類・築城年代・築城者・城主・城の歴史・城の構造という8つの観点で12城の事実を確認する構成です。同じ城の同じ事実を、属性を変えて二度問うことはしていないので、1問ずつ独立した知識として押さえてください。年数を扱う計算問題は、資料の数値を足し算・引き算するだけで解けるように作っていますが、資料の数値に2説ある場合（丸岡城の築城年など）や、幅で書かれている場合（新発田城の完成までの年数など）は、その旨を解説に明記しています。「共通」は特定の城を問わない城郭の一般知識で、高麗門・枳形虎口・土塁と版築といった構成要素の名称と、古代から近代までの城の歴史の流れを扱います。

収録内容

サンプル問題

6問

7

本書のご利用にあたって

本書をお読みになる前に、以下の事項をご確認ください。ご購入・ご利用をもって、これらに同意いただいたものとみなします。

- 1. 本書は非公式の学習教材です。** 日本名城検定中日本を実施する一般社団法人日本総合検定資格センターの公認・監修・推奨を受けたものではなく、同機関および関係する事業者と本書の著者との間に、資本関係・提携関係・その他一切の関係はありません。
- 2. 中日本エリアの出題対象の城・県は公表されていません。** 本書は、中部地方9県（新潟・富山・石川・福井・山梨・長野・岐阜・静岡・愛知）を中日本の 仮の範囲とし、公開資料で裏付けが取れた12城（富山県は対象城なし）と城郭全般の一般知識で 作成した想定問題集です。本試験の出題対象の城・県とはずれる可能性があります。科目別の 出題割合も公表されていないため、受検案内が示す中項目の数の比で配分しています。
- 3. 本書の問題・解説は、すべて著者が独自に作成したものです。** 試験問題を再現・引用したものではありません。また、公式テキスト、講座資料、他社の教材から文章を転載した箇所もありません。作成にあたっては、自治体・教育委員会・文化庁など官公庁等が 公表している資料のみを参照しています。
- 4. 本書は試験に出題される内容を予測・保証するものではありません。** 収録した問題は、公開されている出題範囲と公開資料をもとに著者が独自に構成した想定問題であり、 実際の出題との一致を意図したものでも、保証するものでもありません。本書を学習しても合格を保証するものではありません。
- 5. 内容は制作時点の情報に基づきます。** 公式テキストの内容や、対象となる城の一覧が改定・拡充される可能性があります。本書の記述が 最新の状況と異なる場合がありますので、実際の受験にあたっては、必ず実施団体が公表する 一次情報をご確認ください。

6. **内容の正確性について。** 著者は内容の正確性に努めていますが、誤りがないことを保証するものではありません。本書の利用によって生じたいかなる損害についても、著者は責任を負いかねます。
7. **複製・再配布の禁止。** 本書は購入者ご本人が学習に利用する目的で提供されています。全部または一部を問わず、複製、転載、譲渡、貸与、公衆送信（インターネット上での共有・アップロードを含む）、翻案することを禁じます。
8. **商標について。** 本文中に記載される試験名、団体名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。本文中では ™ および ® を省略しています。これらの表示は、当該商品・サービスを説明する 目的で用いているものであり、権利者による本書の承認を示すものではありません。

サンプル問題

製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、全収録問題から抜粋しています。計算問題・事例問題も含めています。

問 1

中日本の日本名城全般

本丸御殿の焼失から復元まで

次の表は、名古屋城本丸御殿に関わる出来事を、名古屋城の観覧ガイドの記載から抜き出したものである。本丸御殿が空襲で焼失してから、復元によって往時の姿がよみがえるまでは何年か。最も適切なものを選び。

名古屋城本丸御殿に関わる出来事（観覧ガイドより作成）

年	出来事
1615年（慶長20）	尾張藩主の住居かつ藩の政庁として本丸御殿が建てられる
1945年（昭和20）	空襲により本丸御殿が焼失する
1959年（昭和34）	天守閣が再建され、本丸の正門も天守閣とともに再建される
2018年（平成30）	江戸時代の図面などをもとにした復元工事により、本丸御殿の往時の姿がよみがえる

- A 73年
- B 14年
- C 330年
- D 403年

問 2

中日本の日本名城全般

松本城主のうちの家門の大名

松本城の公式サイトは、松本城の城主について「譜代の大名が城主となり」と説明したうえで、ある1人だけを家門の大名として挙げている。その人物と、徳川将軍家とのつながりの組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

- A 堀田正盛 — 3代将軍家光の寵臣
- B 戸田康長 — 家康の生母於大が生んだ義妹松姫を妻とした
- C 小笠原秀政 — 家康の長男信康の娘福姫（登久姫）を妻とした
- D 松平直政 — 家康の二男秀康の子

問 3

中日本の日本名城全般

金沢城二の丸御殿の3つの区分

金沢城二の丸御殿は、使われ方によって大きく3つに区分できるとされる。次の表の（ア）～（ウ）に入る説明の組合せとして、最も適切なものはどれか。

金沢城二の丸御殿の区分

区分	使われ方
表向（おもてむき）	（ア）
御居間廻り（おいままわり）	（イ）
奥向（おくむき）	（ウ）

- A** （ア）藩主の日常の生活空間 （イ）儀礼や政務の場 （ウ）女性たちが居住する場
- B** （ア）儀礼や政務の場 （イ）女性たちが居住する場 （ウ）藩主の日常の生活空間
- C** （ア）女性たちが居住する場 （イ）藩主の日常の生活空間 （ウ）儀礼や政務の場
- D** （ア）儀礼や政務の場 （イ）藩主の日常の生活空間 （ウ）女性たちが居住する場

問 4

中日本の日本名城全般

高田城跡を案内する

越後の城をめぐるツアーで高田城跡を訪れた参加者が、ガイドに「天守閣はどのあたりに建っていたのですか。石垣は残っていますか」と尋ねた。上越市の資料に照らして、ガイドの答えとして最も適切なものはどれか。

- A 「天守閣は明治の初めに取り壊されましたが、本丸の石垣は今も残っています」
- B 「天守閣は戦災で焼けましたが、天守台の石垣だけは築城当時のものが残っています」
- C 「高田城には天守閣が建てられず、石垣も積まれませんでした。工事を急いだためといわれます」
- D 「天守閣は建てられませんでした、石垣は伊達政宗の指揮で城の全周に積まれました」

問 5

共通

城めぐりで櫓と門の意匠を見分ける

城めぐりのガイドが、参加者に配るメモを作っている。次の表は、ある城で見られる門・櫓の意匠と用途を整理したもので、③の名称だけが空欄になっている。
③に入る名称として、最も適切なものはどれか。

城めぐりメモ 門・櫓の意匠と用途

番号	見られる場所	見た目	用途・意味	名称
①	本丸の東の門	主柱と左右の控柱の上にも屋根がのる	門の形式	高麗門
②	隅櫓の二階の西面と南面	壁から張り出し、屋根が付く	敵を攻撃する	石落とし
③	隅櫓の三階の屋根の軒	軒が弓なりの形になっている	格式の高い装飾	(空欄)
④	門の両側の土堀	堀に穴が開いている	鉄砲を撃つ	鉄砲狭間

A 入母屋破風

B 軒唐破風

C 切妻

D 出格子

問 6

共通

明治初期の3城の比較

次の表は、明治初期の城内の取り壊しと、その後の城跡の使われ方を3つの城について記したものである。ア〜ウに当てはまる城の組合せとして正しいものはどれか。

明治初期の城跡の扱い

記述	内容
ア	本丸の一部を残して破却され、本丸と二の丸の一部の跡地に歩兵第十六連隊が創設された
イ	城内の主要な建物がほとんど取り壊され、内城全体が勸業試験場として使われはじめた
ウ	兵部省が天守内の武器を接収し、のちに地元の有志の会が本丸と天守を借りて農業の試作地とした

A ア 甲府城 イ 新発田城 ウ 松本城

B ア 松本城 イ 甲府城 ウ 新発田城

C ア 新発田城 イ 甲府城 ウ 松本城

D ア 新発田城 イ 松本城 ウ 甲府城

解答・解説

問 1 正解 A 中日本の日本名城全般 本丸御殿の焼失から復元まで

焼失は1945年、復元は2018年なので、年数は次のとおりである。

焼失から復元までの年数

区分	年
復元（往時の姿がよみがえった年）	2018
焼失（空襲の年）	1945
差	73

$2018 - 1945 = 73$ で、**73年**である。本丸御殿は日本を代表する書院造の建物で、城郭では天守閣とともに国宝第一号に指定されていたが、空襲で焼失し、江戸時代の図面などの史料をもとに正確に復元された。したがって **A** が正しい。

他の選択肢 B は誤り。 $1959 - 1945 = 14$ は、焼失から天守閣の再建までの年数であり、本丸御殿の復元とは別の出来事である。C は誤り。 $1945 - 1615 = 330$ は、本丸御殿が建てられてから焼失するまでの年数である。D は誤り。 $2018 - 1615 = 403$ は、建てられてから復元までの年数である。

出典 観覧ガイド／名古屋城（名古屋城公式ウェブサイト）「本丸御殿」「正門」

問 2 正解 D 中日本の日本名城全般 松本城主のうちの家門の大名

公式サイトは、松本の城主について「譜代の大名が城主となり、**松平直政が家門の大名です**」と書き、直政を「家康二男秀康の子」と説明している。直政は寛永10年（1633）から寛永15年（1638）まで城主を務めた。したがって **D** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。堀田正盛が家光の寵臣であることは書かれているが、家門の大名として挙げられているのは松平直政である。B は誤り。戸田康長が松姫を妻としたことは書かれているが、家門の大名ではない。C は誤り。小笠原秀政が福姫（登久姫）を妻としたことは書かれているが、家門の大名として挙げられているのは直政だけである。

出典 国宝 松本城 公式サイト「松本城の歴史」（松本市）「江戸時代の松本」歴代城主一覧のあとの説明文

問 3 正解 D 中日本の日本名城全般 金沢城二の丸御殿の3つの区分

石川県の資料によれば、二の丸御殿は藩主の住まいや政務の場として藩政の中心となった**城内最大の建造物**で、全体で**約3,200坪**、60を超える部屋からなっていた。区分は次のとおりである。

二の丸御殿の区分と使われ方

区分	使われ方
表向	儀礼や政務の場
御居間廻り	藩主の日常の生活空間
奥向	女性たちが居住する場

御殿は江戸前期の創建以来、二度の火災による焼失と再建を経て、明治14年（1881）まで存在した。現在進められている復元整備は、このうち**表向**の主要部を対象としている。したがって **D** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。（ア）と（イ）が入れ替わっている。表向は儀礼や政務の場で、藩主の日常の生活空間は御居間廻りである。B は誤り。（イ）と（ウ）が入れ替わっている。女性たちが居住したのは奥向である。C は誤り。（ア）と（ウ）が入れ替わっている。儀礼や政務の場は表向である。

出典 金沢城二の丸御殿の復元整備（石川県、2026年7月17日更新）「二の丸御殿の概要」

問 4 正解 C 中日本の日本名城全般 高田城跡を案内する

上越市の資料は、高田城の特徴として、近世城郭のシンボルとされる**天守閣が建築されなかったことと、石垣が積まれなかったこと**を挙げ、その理由は**工事を急いだため**といわれているとしている。天守閣の跡や天守台の石垣を案内する答えは資料と合わない。したがって **C** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。高田城にはそもそも天守閣が建築されておらず、石垣も積まれていない。B は誤り。天守閣が戦災で焼けたという記述はなく、天守台の石垣もない。D は誤り。天守閣が建てられなかった点は合っているが、石垣も積まれなかった。伊達政宗が指揮したのは普請全体の陣頭指揮である。

出典 上越市「上越市の文化財 高田城跡」（2025年10月1日更新）徴証・伝来

問 5 正解 B 共通 城めぐりで櫓と門の意匠を見分ける

名古屋城公式ウェブサイトは東南隅櫓について、三階東側の屋根の軒に**弓なりになった軒唐破風（のきからはふ）**という**格式の高い装飾**が施されていると説明している。軒が弓なりの形で、用途が装飾である③は軒唐破風にあたる。なお①～④の名称と用途は、同じサイトの東二之門・西南隅櫓・表二之門の説明と一致する。したがって **B** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。「入母屋」は丸岡城天守の説明では櫓の屋根の形として出てくる語で、軒を弓なりにした装飾を指すものとしては資料に出てこない。C は誤り。「切妻」は丸岡城天守では望楼の基部の張り出しの屋根の形として出てくる語で、弓なりの装飾ではない。D は誤り。出格子は丸岡城天守の下層の壁面（西・南・北の3面）に設けられたもので、屋根の軒の装飾ではない。

出典 名古屋城 観覧ガイド（名古屋城公式ウェブサイト）「東南隅櫓」「西南隅櫓」「旧二之丸 東二之門」「表二之門」／重要文化財（建造物）丸岡城天守保存活用計画（坂井市）第1章 1.4.4（ア）概要

問 6 正解 C 共通 明治初期の3城の比較

アは **新発田城**。明治6年の城郭破却令で現存する本丸の一部を残して破却され、本丸と二の丸の一部に **歩兵第十六連隊** が創設された。イは **甲府城**。明治10年前後に城内の主要な建物がほとんど取り壊され、**内城全体が勸業試験場** として利用されはじめた。ウは **松本城**。明治4年に兵部省から来た山縣有朋が天守内の武器を接收し、明治13年には **松本農事会** が本丸と天守などを借りて果樹・野菜の新種を試験栽培した。したがって **C** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。アとイが逆で、勸業試験場は甲府城、歩兵第十六連隊は新発田城である。B は誤り。アを松本城、ウを新発田城としている点が逆である。D は誤り。イとウが逆で、農事会が天守を借りたのは松本城、勸業試験場は甲府城である。

出典 新発田城の歴史と概要（新発田市）「幕末明治維新と新発田城」廃藩置県と城郭破却令／甲府城（甲府市）本文・年表／松本城の歴史（松本市）明治維新・松本農事会の試作地

本章の出典

- ・ 観覧ガイド／名古屋城（名古屋城公式ウェブサイト、名古屋市）
- ・ 縄張（名古屋城公式ウェブサイト「名古屋城について／建築・構造」、名古屋市）
- ・ 天守／堀・石垣（名古屋城公式ウェブサイト「名古屋城について／建築・構造」、名古屋市）
- ・ 駿府城跡・駿府城跡天守台発掘調査（静岡市公式ホームページ、2025年12月26日更新）
- ・ 駿府城公園の整備（静岡市公式ホームページ、2025年2月12日更新）
- ・ 国宝 松本城 公式サイト トップページ（松本市、2026年9月29日取得）
- ・ 国宝 松本城 公式サイト「松本城の歴史」（松本市、2026年9月29日取得）
- ・ 上田城サイト（上田市、2026年9月29日取得）
- ・ 甲府市 観光情報「甲府城」（甲府市、2025年8月5日更新、2026年9月29日取得）
- ・ 金沢城跡・珠洲陶器窯跡（石川県 石川の文化財〈史跡・名勝・天然記念物（国指定）〉、2025年10月29日更新）
- ・ 金沢城二の丸御殿の復元整備（石川県 土木部公園緑地課、2026年7月17日更新）
- ・ 重要文化財（建造物）丸岡城天守保存活用計画 第1章 計画の概要（坂井市、令和6年3月作成）
- ・ 新発田市「新発田城の復元について」歴史と概要・歴代藩主・新発田城の変遷（ページ番号1005179～1005188、平成30年3月28～29日ほか更新）
- ・ 上越市「上越市の文化財 高田城跡」（2025年10月1日更新）
- ・ 村上市「国指定史跡村上城跡（お城山）」（2023年2月9日更新）
- ・ 福岡県の中近世城館跡Ⅲ―豊前地域編―（福岡県文化財調査報告書第254集、福岡県教育委員会、2016年）
- ・ 名古屋城 観覧ガイド（名古屋城公式ウェブサイト、名古屋市、2026年9月取得）
- ・ 新発田城 歴史と概要「新発田城の概要」（新発田市、平成30年3月更新）
- ・ 重要文化財（建造物）丸岡城天守保存活用計画 第1章 計画の概要（坂井市、令和6年10月文化庁長官認定）
- ・ 駿府城跡・駿府城跡天守台発掘調査（静岡市、2025年12月更新）
- ・ 大宰府と古代山城の年代論（特別史跡 大宰府跡・大野城跡・水城跡 調査研究報告 第2部、九州国立博物館ほか、2017年）
- ・ 大宰府と古代山城の年代論（特別史跡 大宰府跡・大野城跡・水城跡 調査研究報告 第2部、九州国立博物館ほか、2017年シンポジウム配布資料の再掲）

-
- 福岡県の中近世城館跡Ⅲ―豊前地域編―（福岡県文化財調査報告書第254集、福岡県教育委員会、2016年3月）
 - 新発田城の歴史と概要（新発田市、平成30年3月更新）
 - 松本城の歴史（松本市 松本城管理事務所、2026年9月取得）
 - 甲府城（甲府市、2025年8月5日更新）
 - 天守等の復元の在り方について（取りまとめ）（文化庁 史跡等における歴史的建造物の復元の在り方に関するワーキンググループ、令和元年8月）

いずれも公的機関等が公表している資料です。制度は改正されるため、受験にあたっては必ず最新版をご確認ください。

日本名城検定中日本 想定問題集

2026年9月版（第1.2版・2026年10月14日改訂）

発行：Skill Base Camp <https://skillbasecamp.com>

本書は非公式の学習教材であり、試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。

内容は公開情報に基づき著者が独自に作成しています。制作時点の情報に基づくため、制度の最新の状況は一次情報をご確認ください。

文中に記載される試験名・団体名・製品名は、各社の商標または登録商標です。本文中では ™ および ® を省略しています。